

山の学習支援事業プログラムの実施例（案）

対象プログラム	No.4 牧野植物園の見学、 No.10 森林入門
---------	---------------------------

学校名	室戸市立羽根中学校
学年・生徒数	2年生 13名
実施場所	高知県立牧野植物園
目標	森林や植物の多様性やはたらき、恩恵について知るとともに、川や土壌の維持とも関連していることを知る。それを通して、自然を大切にすることの重要性を学び、自然環境を保全しようという精神を養う。
実施教科	総合的な学習
関連教科	理科、社会科
準備物	児童…タブレット、筆記用具、弁当、水筒など 講師（施設）…パソコン、プロジェクター、ポータブルスピーカーとマイク

実施項目	講話（牧野博士の歴史、高知県の森林について） 植物観察、自由散策
対象プログラム	No.4 牧野植物園の見学、 No.10 森林入門
所要時間	講話 60分程度、植物観察 60分程度、自由散策 60分程度
実施内容	<p><u>・バスで到着</u></p> <p>まず、トイレ休憩の時間をとった。（移動時間は、学校から車で約1時間40分）その後、実習室に移動し、スケジュールなどの確認をした。</p> <p><u>・講話（高知県の森林の植生、牧野博士について）</u></p> <p>実習室にて、講師（高知県牧野記念財団 ガイド解説員）は①牧野博士の歴史と②高知県の森林と植生等について講話した。</p> <p>①では、NHK「らんまん」の話を織り交ぜながら、牧野博士が「日本の植物分類学の父」といわれるようになった理由などについて説明された。②は、講師が独自に作成した資料を使っていた。高知県の森林率や森林の機能等森林環境の基本的なデータ以外に、植生の歴史、シカやイノシシの食害と対策、高知県の特色ある植物（室戸市の植生含む）等も紹介された。多岐にわたる内容で非常に充実した講話だった。</p> <p><u>・昼食、休憩（50分程度）</u></p> <p>生徒は弁当と飲み物を持参。園内の「飲食可」の場所で昼食をとった。</p> <p><u>・植物観察（ガイド付き）</u></p> <p>園内入口付近「土佐の植物生態園」にて、講師の説明を受けながら、高知県の植物について学習した。海岸沿い、河川沿い、山間、湿地帯などにエリア分けされており、地理条件等の違いによる植生を学ぶことができた。午前中の講話で習ったことを振り返りながら、植物の実物を見たり触ったり匂いを嗅ぐな</p>

どして観察し、タブレットに記録した。NHK「らんまん」で紹介された植物には表示がつけられており、生徒も教員も興味深く観察していた。

・自由散策

生徒らは園内を自由に散策し、タブレットで気になる植物などを撮影して記録した。

実施風景



補足 その他、プログラムの 特徴

- ・入園料は、高校生以下無料。県内の保育所、幼稚園、小中高等学校の学校行事で利用する場合、引率者の入園料の減免（免除）には申請が必要。
- ・学校で事前に牧野植物園や室戸市の植物に関する学習を行っており、講師の話もスムーズに習得している様子だった。
- ・生徒は全員タブレットを使って学習していた。
- ・学習プログラムは、今回は事前に牧野記念財団に相談し、学校の意向を踏まえた形に調整していただいた。基本的には既存のプログラムから選択する形式だが、（学年や人数等にもよるが）可能な範囲で要望に対応していただける。
- ・「らんまん」効果もあって多数の来場者があり込み合っていた。
- ・今後の授業では、室戸市産業振興課がサポートし、地域環境（室戸の自然、木質バイオマスなど）について学習する予定。